「教育実習を振り返って」

［私立高等学校　英語］

今年は新型コロナウイルス流行のために、例年より教育実習の時期がずれ込んでしまい、実習さえもできるか怪しい状態で、生徒と一緒に行事に参加することもできませんでした。同じように実習が秋になったり、実習自体がなくなったりしている学生が多い中、私は今回実習をさせていただいて本当に良かった、恵まれていたと思います。実際に現場へ行かなければ分からないようなこと、教材研究や授業を計画する大変さ、計画していても授業では計画通りにいかないことが多いのでそのときに求められる臨機応変な行動、何より生徒とのコミュニケーションなど体験することで改めて気づけました。過去のように体育祭の準備を通して仲良くなることはできなかったので、掃除時間や昼休みを通して話さなければいけなかったのですが、今回 HR を担当したクラスの生徒のほとんどが運動部でみんな教室からすぐ出て行ってしまい、実習が始まって最初の 2・3 日は生徒とのコミュニケーションが中々とれませんでした。それでもなんとか話題を見つけて話しかけにいき、2 週目頃からは数人の生徒が挨拶をしに来てくれたり、部活に行く前に少しだけと話しに来てくれたり、毎日声をかけてもらうことがうれしく思いました。

研究授業の前日、控え室に重要な配布プリントを忘れたことに授業が始まって 10 分後に気づいて慌てて取りに帰り、失敗したと焦っていたのですが、逆に走って取りに帰ったことや自分のドジなところに親近感をわいてもらえたのか、ほとんどの生徒が少し笑いながら協力的に授業を受けてくれて、気をつけなければいけないことですが、プリントを忘れて良かったとも思いました。自分の性格上、全てを完璧にしなければならないと考えていたので、忘れ物をしてからの授業では言い忘れていたりとか、教壇でつまずいたりとか、自分のドジな部分がさらに出て、生徒もそれなりに笑って楽しそうに授業を受けてくれたので、研究授業もいつも通り慌てながらも安心して授業をできたと思います。私は急なトラブルには焦ってうまく対処できない方だったのですが、研究授業での音声トラブルに対し、たまたま残していた録音でなんとかやりきったこと、それについては褒められるところだと思いましたし、逆にそういう経験も良かったかなと終えてから感じました。

最後に私の実習を指導してくださった先生から、「まだまだ発音や英語の知識は勉強が必要ですが、あなたは教員としてのスタートに立てています。自信を持って頑張ってください」とお言葉をいただきました。私は来年の春から英語科の常勤講師として勤めることになっているのですが、このお言葉を忘れずに、私の目標である「生徒が英語に興味を持てるような授業」をできる、私が憧れてきた「生徒に寄り添えるような教員」を目指して、春以降も頑張りたいです。